

## 講演会・カンファランス等のご案内

### 北九州地区小児科医会のご案内

#### 第547回(第46回北九州小児感染症懇話会と合同)

日時：2018年6月21日(木) 19:00～

場所：ステーションホテル小倉 飛翔の間

一般演題：「発熱が遷延するマイコプラズマ肺炎症例における抗菌薬不応例予測に関する検討」

演者：産業医科大学 小児科 多久 佳祐 先生

特別講演：「最近の小児肺炎の原因菌の耐性動向と小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017」

演者：JA北海道厚生連 旭川厚生病院  
小児科主任部長 坂田 宏 先生

#### 第548回北九州地区小児科医会7月例会

日時：2018年7月21日(木) 17:20～

場所：ホテルクラウンパレス小倉

一般演題：「初発症状として歯肉腫脹を認めた慢性非細菌性骨髄炎の1例」

演者：産業医科大学 小児科 五十嵐 亮太 先生

一般演題：「食物アレルギーに対するエピペンの使用経験について」

演者：北九州市立八幡病院 小児科 小野 佳代 先生

特別講演：「日常診療で免疫不全患者が疑われ専門医に紹介すべきポイント」

演者：筑波大学 医学医療系  
小児科学 教授 高田 英俊 先生

### 産業医科大学カンファランス・セミナー

#### 6月産業医科大学小児科セミナー

日時：2018年6月28日(木) 18:00～

場所：産業医科大学大学2号館3階 2301教室

演題：急性副腎不全の診断と対応

演者：産業医科大学小児科  
島本 太郎先生 桑村 真美先生 齋藤 玲子先生  
久保 和泰先生 川越 倫子先生 山本 幸代 先生

#### 7月産業医科大学小児科クリニカルカンファランス

日時：2018年7月2日(月) 19:00～

場所：産業医科大学大学2号館3階 2201教室

演題：「気管支拡張症の児を発見した場合に鑑別すべき疾患は？」

演者：産業医科大学小児科  
川瀬 真弓先生 保科 隆之先生

#### 7月産業医科大学小児科セミナー

日時：2018年7月12日(木) 18:00～

場所：産業医科大学大学2号館3階 2208教室

演題：「脊髄性筋萎縮症の最新知見」

演者：産業医科大学小児科  
五十嵐 亮太先生 福田 智文先生 石井 雅宏先生

### その他講演会などのご案内

#### 第54回福岡小児科医会総会

日時：2018年7月7日(土)16:00～

場所：ホテルオークラ福岡

総会：16:00～17:00

特別講演：特別講演

演題：「子ども政策をめぐる今日の状況」

演者：参議院議員 自見 はなこ 先生

学術講演：17:30～19:30

演題1：「税務署から否認されない賢い税務調査対策」

演者：緒方会計事務所 税理士 緒方 芳伸 先生

演題2：「ワクチン接種を躊躇する家族への対応～相互理解を目指して～」

演者：富山大学 小児科 種市 尋宙 先生

懇親会：19:30～

#### 第413回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2018年6月28日(木) 19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター  
地域医療研修センター

演題1：「小児ネフローゼ症候群の新しい治療～リツキシマブ使用症例～」

演者：北九州市立医療センター 小児科 黒木 理恵 先生

演題2：「自己免疫性溶血性貧血の1例

～リツキシマブ使用経験を含めて～」

演者：北九州市立医療センター 小児科 日高 靖文 先生

#### 八幡小児科医会6月例会

日時：2018年6月12日(火) 19:00～

場所：千草ホテル 本館2階 光琳の間

演題：腸内細菌叢の異常と子どもの病気の関わり

演者：関西医科大学 小児科学講座  
教授 金子一成 先生

## 保険診療メモ：その1

### 九州小児科審査員連絡協議会の報告 (その2)

今月も昨年の九州小児科審査員連絡協議会で、ほぼ合意が得られたものの中から重要と思われるものをご紹介しますと思います。今回の2回目は「治療に関するもの」と「処置・リハビリなどに関するもの」です。

(治療)

Q-1、未然・頓用の投与について：抗アレルギー剤など「症状出現時」、「じんましん出現時」などの処方、認められるか？ もし認められる場合、処方量はどのくらいか？

A-1、認められる。内服(定期)処方の場合、2、3日分。頓服では10回分以内。

Q-2、アドエアディスカス100(およびエアゾール50)以外は小児では不可か？

A-2、10歳未満には小児用製剤のみ。それ以上の年齢では妥当なコメントがあれば成人用製剤を認める。

Q-3、ホクナリンテープは年齢で投与量が決まっているが、体重での投与量(分割して貼付)は如何か？

A-3、年齢を重視。体重の記載があれば大きいものの適応も考慮する。

Q-4、ロイコトルエン受容体拮抗薬は年齢で剤型・用量が決まっているが、年齢通りでなければ不可か？

A-4、原則は添付文書の量。妥当なコメントがあれば増量も考慮する。

Q-5、ジルテックドライシロップの用法・用量においては年齢により投与量が定められているが、用法・用量を超える投与を認めているか？

A-5、原則は添付文書の量。妥当なコメントがあれば増量も考慮する。

Q-6、適応年齢外の使用について：リスパダール®(原則5歳以上18歳未満)、エビリファイ®(原則6歳以上18歳未満対象)となっているが、厳密に守るべきか？

A-6、適切なコメントがあれば、±2歳くらいは許容される。

Q-7、オゼックス細粒の適応症について：適応菌種にマイコプラズマが追加されたが、気管支炎+マイコプラズマ感染症で認められるか？

A-7、適応菌種の拡大であって、傷病名ではない。肺炎の病名が必要。

Q-8、ナウゼリン坐剤60の適応は成人のみであるが、例えば10歳以上での投与を認められるか？

A-8、成人であっても多くの場合、適応外。胃・十二指腸術後または抗悪性腫瘍投与時に適応が限られている。

Q-9、特発性血小板減少性紫斑病でネオオラルは算定できるか？

A-9、適応外。

Q-10、皮膚掻痒疹における抗アレルギー剤投与は適応か？(別途アレルギー傷病名が必要?)

A-10、明らかに皮膚掻痒疹を伴う疾患では病名追加は不要。

Q-11、胃瘻造設状態のみの病名でファモチジン散10%の使用について：慢性胃炎等の病名併記が必要か？

A-11、適応症の記載が別途必要。

Q-12、五苓散を坐薬で使用している施設がある。使用法が保険適応外だが査定の対象になるか？

A-12、注腸や坐薬の場合は認められない。

Q-13、イノベロン®やディアコミット®など新しい抗てんかん薬は他剤との併用となっているが単剤で使用した場合、「併用療法で始まり他剤の中止により単独となった」等コメントがあれば認められるか？

A-13、コメントがあれば認める。

Q-14、エピペンの禁忌について：リスパダール、エビリファイにはボスミンが禁忌となっているが、服用中のアナフィラキシー患者へのエピペン処方認められるか？

A-14、認める。小児心身医学会から厚労省に400例を超える併用例の安全性を提示している。

Q-15、多形滲出性紅班におけるセレスタミンの処方不可か？

A-15、認める。皮膚科学会のHPで推奨されている。

Q-16、汗疹でのステロイド剤の使用について：ローション、クリームだけでなく軟膏も認められるか？

A-16、認める。

Q-17、バルトレックス錠を「造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制」として用いる場合、「移植施行7日前より施行後35日まで」となっているが、35日を超えて処方できるか？

A-17、原則認められない。必要性をコメントすべき。

Q-18、骨肉腫で手術後に転移があり通常の化学療法が無効である場合、適応外ではあるが有効性が報告されている治療を保険診療として認めているか？

A-18、まれな症例、重篤な症例として使用した根拠を文献とともに記載することで認める。

## 保険診療メモ：その2

(処置・リハビリ・その他)

Q-1、導尿(尿道拡張を要するもの：J064)について：  
成人では女性は算定不可、男性は前立腺肥大症などが適応だが、小児の適応は？

A-1、基礎疾患による。女児であるなどの理由で査定は行わない。

Q-2、新生児の低体温療法：適応は「心肺蘇生後」であるが、重症新生児仮死があれば認められるか？(例として、アプガーからは重症仮死だが、心肺蘇生がない、またはバッグのみの場合)

A-2、心肺蘇生が必須。バッグのみでは認めない。施行時点での脳障害がないことも重要。

Q-3、浣腸の適応病名について：「嘔吐下痢症」「感染性胃腸炎」の傷病名で浣腸は認めているか？「観便のため」等コメントが必要か？

A-3、消化器(腸)疾患の傷病名で認める。添付文書の適応症は便秘の他、「腸疾患時の排便」となっている。

Q-4、脳血管リハビリテーション料を極小低出生体重児や脳性麻痺の病名で算定出来るか？

A-4 脳性麻痺は認められるが、極低出生体重児では不適當。青本で適応を確かめて欲しい。

(福岡県小児科審査員連絡会)

## 役員会報告（6月7日：木曜日）

## 協議事項

1. 第55回北九州地区小児科医会総会について  
平成31年1月20日（日曜）  
特別講演の講師の選定について話し合いました。  
まだ未定です。
2. 予防接種接種後転居で接種請求できない事例があります  
ので、行政の方に対処の仕方を伺うように予定しています。  
予防接種研修会か乳幼児健診研修会の時を考えていますので  
またご報告いたします。（三宅）

## 報告事項

- ① 第14回保育園保健協議会全国研修会：5月27日  
吉田ゆかり先生が会頭で行われました。参加者は370名超と  
盛会で終えることができました。保育現場ですぐに役立つ内  
容の講演ばかりで参加者からも好評でした。また、市川光太  
郎先生も体調の悪い中1時間の講演をしていただきました。  
準備に携わった先生方、当日いろいろと支援していただいて  
先生方、有難うございました。  
なお、**小児科学会専門医単位はご参加の先生方に新しいものを送る予定**にしています。
- ② 福岡県小児科医会総会  
7月7日（土）16：00～ 会場；ホテルオークラ福岡  
会員の先生方に案内があると思いますので、早めに出欠の  
返事をお願いします。

## 委員会報告

1. 学術報告：神菌淳司  
今後の講演会の予定です。講演会一覧参照ください。  
8月はお休みの予定です。
2. 感染症・予防接種委員会：古村速  
麻疹・風疹・百日咳の全数報告が義務化されましたので、北  
九州市の保健所にそれらを診察した際の届け出の方法などを  
確認しました。ご参考下さい。  
  
※麻疹、風疹  
疑わしい例が出た場合、直ちに保健所に報告してください。  
保健所に検体（PCR用の咽頭拭い液、尿）を提出します。  
（容器は保健所が持って来てくれます。血液のPCRは北九州  
市では行っていません。）血液検査（抗体検査）が必要な場  
合は、各医療機関で行います。  
  
※百日咳  
確定診断がついた後、保健所に報告（7日以内）します。  
検査は各医療機関で行います。
3. 乳幼児・学校保健委員会：古賀一吉  
第1回乳幼児健診登録医療機関研修会が決定しました。  
9/25（火）19時～商工貿易会館  
金原洋治先生（下関市）  
「山口県の5歳児健診の実際」
4. 広報委員会：富田一郎  
会報のレイアウトを少し変更しました。  
以下のHPの更新を行っています。  
1) 会員のいる診療所・病院の更新  
2) 子ども健康ニュースをアップしています。